

■ 人間の土地



太 田 誠*

「ほくら人間について、大地が、万巻の書より多くを教える。理由は、大地が人間に抵抗するがためだ。人間というのは、障害物に対して戦う場合に、はじめて実力を発揮するものなのだ。」

「星の王子様」で有名なサン＝テグジュペリの「人間の土地」(Terre des Hommes)の冒頭文である。サン＝テグジュペリは御存知の方も多と思うが、フランス人で飛行機が実用化されだした頃の職業パイロットであった。現代では簡単に飛行機に乗ることも可能で、誰でも上空から大地を眺めることができるが、彼の時代に上空から大地を眺めることができた者はきわめてかぎられていた。パイロットとして、プロペラ機を操りながら彼は大地を目にし、その大地に生きるわれわれ人間について思索をめぐらせた。その思索をまとめた書が「人間の土地」である。

この冒頭文は、土木技術者である私にさまざまな思いを抱かせる。サン＝テグジュペリは、人間について語っているが、私は、この冒頭文の人間という言葉に土木技術者に置き換えてみてもよいと思っている。大地は、われわれ人間を取り巻く環境と考えればよい。戦うという言葉は強いが、さまざまな現象を理解し、対処法を見出し、人間の生活を成立させるための環境を整備する土木技術の歩みを戦いと表現しても差し支えはないだろう。

現在、東北地方においてこの戦いは日々行われている。復興という名の戦いである。土木技術者のみならず、多くの人間が人間としての実力を発揮していると私は信じている。東北の戦いは東北だけの戦いではない。人間の人間としての戦いであると思う。その中で土木技術者の役割は格別に重要だと私は思う。有史以来、この大地と戦ってきた土木技術者は、人間のなかでもっとも大地の理解に努めてきたし、また、それゆえに恐れもしてきた。大地は時に牙を剥く。大地の牙

の前で時に人間は無力であるかにも思える。ある意味、それは正しいのだろうが、サン＝テグジュペリはこうもいう。「人間に恐ろしいのは未知の事柄だけだ。だが未知も、それに向って挑みかかる者にとってはすでに未知ではない、ことに人が未知をかくも聡明な慎重さで観察する場合なおのこと。」

さて、プレストレストコンクリートはいうまでもなく、コンクリート、鋼材等から成立している。コンクリートはセメント、骨材、水等から、鋼材はもともと鉄鉱石から製造される。すなわち、プレストレストコンクリートの構成要素はすべて大地から得られるものである。大地のなかから人間の英知が導き出したものということができるだろう。あたり前といえあたり前すぎることであるが、そういった意識でこの物質世界をみることも価値がないこともない。大地が人間に抵抗するとサン＝テグジュペリはいう。その抵抗はさまざまな形で現れる。大地から生まれた諸材料が経時的に変化していくこともひとつの抵抗であろう。コンクリートの諸性質も大地の抵抗なのだと思え、これに対して、聡明な慎重さをもって観察し、未知を既知にしていくときに、われわれは実力を発揮せねばならない。いままで、発揮した結果が、プレストレストコンクリート構造物としてわれわれの生活を豊かなものにしてきている。これからもこの戦いは続けていかねばならない。プレストレストコンクリートの高耐久化を目指すのも大地の抵抗に対する人間の戦いのひとつであろう。

「努めなければならないのは、自分を完成することだ。試みなければならないのは、山野のあいだに、ぼつりぼつりと光っているあのとしびたちと、心を通じあうことだ。」とサン＝テグジュペリはいう。孤独な個人の戦いは、人間としての戦いへと昇華するはずである。

* Makoto OHTA : 大成建設(株) 土木本部 土木技術部長